

平成28年度救護施設旭寮事業計画書

生活保護法並びに法人の基本方針に基づき利用者の快適な生活及び自立を考慮しつつ、より質の高い福祉サービスを提供するべく下記の事業を行う。

1 運営及び設備

- (1) 施設運営及び利用者への福祉サービスの質の向上を図るため、関係機関及び団体等の研修会に可能なかぎり出席して資質の向上に努め、マナーリズムに陥らないよう、きめの細かいサービスの提供を図り、自主的共同生活を営みうる援助と支援の行き届いた運営を図る。
- (2) 毎月一回以上、職員研修会を行い職員の資質及び福祉サービス提供の向上に努める。また、毎月一回利用者と職員の全体会議を行い、利用者から日常生活の上で改善したい旨の意見を聞き、よりよい生活が営めるようその環境作りに努める。
- (3) 施設に対する理解と認識を高めるため、地元地域への会報の回覧、地域社会に体育館等施設を開放するほか、その他あらゆる機会を通じ啓蒙宣伝に努め、地域との交流を積極的に行う。
- (4) 施設の規律秩序の維持と組織の一体性を欠かさないように毎朝職員連絡会議を行うと共に連絡を密にするため利用者職員全体の朝礼を行う。
- (5) 各種委員会（サービス向上委員会、地域広報委員会、安全対策委員会、研修委員会、給食委員会、地域移行支援委員会）を機能させ、また、ケース担当のチーム化を図り、よりきめの細かい支援、サービスを目指すほか、地域とのより良い関係、職員の資質向上を図る。
- (6) 第三者評価を受審した評価結果を参考に提供サービスの向上に努める。
- (7) 仮泊室の定員を2名とし下記の受け入れを行う。
 - ①長野市福祉事務所等からホームレス等の受け入れ依頼があった場合は可能な限り一時保護等の支援を行う。
 - ②長野保護観察所へ緊急的住居確保・自立支援対策事業者の登録をし対象者の要請があった場合は受け入れを行う。
- (8) 施設整備
移転新築事業を進める。

2 生活支援サービス

- (1) ケースワーク
個別支援計画により、身体的・精神的自立を目的として、個々の年齢・生活歴・障害程度・日常生活の状況等を考慮した、よりきめの細かい個別サービスを提供する。
- (2) 作業指導
労働の尊さと喜びを知り、施設内外への作業参加が自主的に行えることを尊重しつつ労働の価値とその喜びを体得し、自立・勤労精神の育成を図る。
- (3) 教養娯楽
音楽・運動に親しみ、情操と健康の向上に努め、スポーツ・舞踊・歌・ゲーム等を運動会又は、誕生日会、忘年会を中心とした行事に向け支援する。
- (4) クラブ活動
個々の能力に応じた活気に満ちた生活が送れるように、各自希望するクラブ活動に参加できるように支援する。
- (5) 機能回復、減退防止に対する配慮
高齢化・重度化に合わせて、毎日2回のラジオ体操・歩行訓練を行うほか、散歩・リハビリ等により機能回復・維持への意欲を高めるためのあらゆる手段を講じていくこと

に努める。

(6) 行事

別紙年間行事計画に沿って行事を実施し、利用者が潤いある生活と自主的に参加することによる連帯感と親睦を培えるよう努める。

(7) 自治会活動への支援

利用者自らの生活の質を利用者が自ら高めると共に、利用者相互の連帯意識の向上と福利厚生を実現するにあたり組織された自治会の活動を支援する。

(8) 地域移行支援事業

- ① 救護施設居宅生活訓練事業を取り入れ、一人暮らしを希望する利用者に対しアパートでの一人暮らしの訓練を行い居宅生活への移行を支援する。
- ② 生活相談員（精神保健福祉士）を配置し、居宅生活訓練者へよりきめの細かいサービス提供に努めるほか、地域との連携強化を進める。
- ③ 保護施設通所事業を取り入れ、居宅生活訓練者への継続的な支援、また、地域の生活困窮者への相談援助事業を行う。
- ④ 長野県障がい者支援課の支援により、障がい者農業就労事業を行い、利用者の就労・自立支援に努める。

3 衛生管理

- (1) 年2回定期健康診断を行う。(但し、胸部X-P検診は年1回) 女性利用者の希望者に対し婦人科検診・乳房検診を行う。毎月血圧・体重の測定を実施し、病気の予防と早期発見、早期治療に努めると共に予防意識を高めてもらうよう掲示物の貼り出しを行う。
- (2) 施設内外の清潔を保つため清掃・消毒・殺虫駆除等を行う。
 - ① 全館を年1回、業者に依頼し消毒する。
 - ② 施設回りの側溝に蚊の発生防止のためゴゴンゾールを初夏に散布する。
 - ③ 全館の手すり、ドアノブ・トイレ等を月1回ウエルパスで消毒する。
 - ④ 畳の消毒を年2回（春・秋）ヒビテンで行う。
 - ⑤ トイレの清掃は1日1回以上行う。
- (3) 風邪の予防のため、手洗いとうがいの励行を促すと共に秋にインフルエンザ予防接種を本人又は家族の承諾を得て実施する。
- (4) 食事前に手指をウエルパスで消毒する。
- (5) 浴槽の掃除は週1回以上行き、湯の張り替えをこまめに行う他、残留塩素検査は必ず入浴前に行うほか、レジオネラ菌検査を年1回以上実施し、浴槽の衛生管理に努める。
- (6) 上水道の一部に高架水槽を使用しているため、年1回以上の水質検査を行う。

4 防災対策

- (1) 防火計画に基づいて毎月1回避難訓練を実施すると共に防火器具・避難経路等の点検を行う。また、夜間の避難訓練を消防署立ち会いのもと年1回以上実施する。なお、夜間実施できない場合は夜間を想定した訓練を行う。
- (2) 防火設備、消火設備並びに火災報知設備の保守点検を業者に委託し、事故及び火災防止に万全を期する。
- (3) 中部電気保安協会による漏電予防検査を実施する。
- (4) 災害に備えて2日分の水・食糧の備蓄を給食業者に保管させるとともに、施設内でも1日分の水・食糧を備蓄する。
- (5) 災害時において地域住民団体等と協力協定を結んだことから応援協力をスムーズに行うため、密接な連携を深めるべく年一回以上避難訓練に参加していただくと共に評価を受ける。

5 給食

- (1) 給食業務の外部委託に伴い、委託業者と密接なる連携をはかり、変化に富んだ、安全で家庭的な楽しい給食になるよう努力する。なお、委託業者とは定期的に打合せ会議を行う。
- (2) 年齢、身体的状況などを考慮し、栄養価は目標量を不足することのないようにするほか、嗜好調査を実施し利用者それぞれに対応した食事を提供できるよう努力する。
- (3) 食中毒の発生を防止するため長野市保健所の指導に従い最善の措置を講ずる。

6 実習生、ボランティア等の受け入れ

業務に支障のないことを前提にして下記の実習生、ボランティア等を可能な限り受け入れ、社会福祉の人材育成並びに社会福祉体験実習の一翼を担う。

- (1) 社会福祉関係大学生及び社会福祉専門学校生
- (2) 小中学校教諭免許取得希望者に対する介護体験実習生
- (3) 司法弁護実務修習生
- (4) 施設でボランティアを希望する者